

神龜五年戊辰の秋八月の歌一首 并せて短歌

一七八五番

人ひととなる ことは難かたきを わくらばに なれる我あ
が身みは 死しにも生いきも 君きみがまにまと 思おもひつつ
ありし間あひだに うつせみの 世よの人ひとなれば 大君おほきみの
命みこと恐かしこみ 天あまさかる 夷ひな治をさめにと 朝鳥あさどりの 朝立あさだ
ちしつ 群鳥むらどりの 群立むらだち去いなば 留とまり居ゐて
我あれは恋こひむな 見みず久ひさならば

反歌

一七八六番

み越路こしぢの 雪降ゆきふる山やまを 越こえむ日ひは 留とまれる我われ
を かけしのて俣しはせ